

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 2月 25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200207		
法人名	医療法人研医会 田辺中央病院		
事業所名	田辺すみれホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護/共用型認知症対応型通所介護		
所在地	和歌山県田辺市新庄町田鶴1739-22		
自己評価作成日	令和4年2月25日	評価結果市町村受理日	令和4年4月6日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和4年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共用型認知症対応型通所介護を行っている事でより地域に密着し
馴染みの関係を作り、利用から入所につながるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

平成27年に開設された施設なので、建物や設備は非常にきれいで充実している。幹線道路から近いが、気になる騒音等もなく、自然を感じられる落ち着いた環境に立地している。敷地内にはサービス付き高齢者住宅も併設されている。
現状のコロナ禍において何かと制限を課せられることが多いなか、スタッフは日々利用者のためにできることを模索し、散歩やドライブ等、感染防止に留意しながらストレス軽減につながるサービスの提供を行っている。
利用者個々のケアについても、毎月開催する会議には全職員が参加しており、研修や勉強会もこまめに開催されていたりと、チーム全体でサービスの向上を目指す姿勢が強く感じられた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた支援ができるよう、定期的に確認、入職者には伝え、実践できるよう、心掛けている。	施設内の目に付きやすいところに理念が掲示されており、会議の場でも、“ゆったりとしたやさしいケア”ができていますか、全職員で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で昨年度と状況は変わらず交流が出来ていないが、月に2回は運営推進会議の中止案内とともにホームでの様子を報告している。	コロナ禍において地域との付き合いの頻度は減少しているが、演劇や演奏会のボランティアに来てもらったり、夏祭りには地域の方の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域というより家族様間で支援の方法、または相談やアドバイスをいただくことがあり、それを実践することがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催は出来ていないが、報告は行っている。	現在は2か月ごとに書面での開催となっている。家族や地域、行政の関係者に書類を送付し、意見を聞いている。コロナ禍でも外出の機会を設けて欲しいとの要望があったので、散歩や日光浴を行う機会を増やした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り、ホーム内の様子を伝えたり、相談やアドバイスを頂いている。	市や社協の関係者とは、書類のやり取りの機会が多いので、日常的に情報交換を行っている。必要時には助言を求めるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	3か月に一度は話し合い、拘束について各フロア毎に振り替える。身体的な拘束は勿論だがスピーチロックが今の課題となっている。	やむを得ず4本柵を使用している事例があるが、正規の手順に従い、家族の同意も得て適切に行っている。3ヶ月ごとに全職員で検討を行い、早期の解除を目指すよう努めている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	今年度は各自eラーニングで学び、外部研修は定期的に参加している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>eラーニングで学ぶ」機械があったが具体的に話し合うことはできなかった。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時、法改正時に説明を行っている。疑問点には説明を行い納得して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ミーティング時、または申し送りで伝え反映させている。</p>	<p>運営推進会議で家族の意見を汲み取り、ウェブ面会を導入したり、外出の機会を増やす等の改善を行った。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期的または必要に応じて意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>月1回全職員が出席する会議があるため、そこで意見や提案の表出をすることが多い。年2回の面談や、ノートを設置するなど、普段から気軽に意見ができる環境を作っている。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の状況は把握しており、各自の思い等、話しやすい環境作りに努めている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部、外部研修に積極的に参加するようつとめている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人内でリモートで行うことがある。</p>	

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴や共感といった基本に基づき少しずつ信頼関係を構築するよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	些細な事の連絡のやり取りを大事にし家族様の意見や思いに耳を傾けるように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	馴染みの関係がより早く構築出来るように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各スタッフはその思いはあるもの実際すべての利用者様に築くことに難しさを感じている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の意向にも配慮しながら支援をしていくことに努めている。		
20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時期面会を通して家族、親戚等と話す機会を持たた。	コロナが下火になっていた時期は面会を再開していたが、現在は中止している。受診や家族の葬儀等には出かけてもらっている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性などを考慮し関わりあえるよう努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いした際に声を掛け、差し障りのない程度に話す機会を作れている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向をくみ取るよう努め、一方的な支援にならないよう、気をつけている。	入居時に意向を確認している。仕事が好きな方には食器洗いや洗濯物たたみを手伝ってもらったり、編み物等の趣味を継続してもらう等の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的にご本人の情報を取り返し、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人にあったサイクルでなるべく過ごして頂けるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回程度計画書、支援内容を振り返り、課題があれば話し合い、今後の支援に反映しているが、ご本人、家族様を交えては出来ない。	全員出席の会議で検討を行い、目標やケア内容の共有をしている。モニタリングは半年ごとに行い、医師や看護師にも意見を聞き、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、または申し送り等で共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最初から出来ないと思わず、様々な対応をしてみる事になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全には十分気を付けているが、豊かさに関しては自信がないが、楽しく過ごしてもらえる様にはつとめている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力頂ける家族様にはお願いすることもある。受診前には相談したうえでやっている。	月2回の往診があり、基本的には法人の医師になっているが、以前からのかかりつけ医での対応も可能になっている。ご家族と相談し通院介助も行われ適切な医療が受けられる支援がされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	都度、報告相談し、受診につなげたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院には小さなことでもほぼ毎日報告。早い段階での受診や入院の相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針の見直しや説明を行い、方針については主治医と話す機会をもってもらい、いざという時の為に病院と共有することに努めている。	看取りは行っていないが、入所時に重度化した時の指針について話し合われ同意書も作成されている。また、重度化した際は、家族・医師を交えて、今後の対応について話し合い、職員間で共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修はコロナで中止となってしまったが、フローチャートの見直し、周知を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定し、2回の重度の入居者様をいかに避難するかで外階段等で検証を行った。	年2回夜間想定避難訓練と災害に対する非難訓練が行われている。マニュアルや連絡網も作成されている。3日間の水・食糧の備蓄もあり、カセットコンロで使用できるストーブなども準備されている。	災害時には停電を伴う可能性が高いと思われるため、備蓄品に、ポータブル発電機などの物品も追加することを検討してみてもいいでしょうか。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>全員が出来ているとは限らないが日々気を付けるよう努めている。</p>	<p>外部研修や法人内での研修を行い、レポートを提出したり、月1回の会議で話し合うことで、職員一人ひとりが人格を尊重した言葉掛けに気を付けた対応ができるよう努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>選択して頂ける方にはなるべくそのような声掛けをするように努めている。</p>		
38	15	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>希望に沿って支援をしたいが出来ていないことが多い。職員の業務優先が目立っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>好みを把握し身に着けることができている方もおられる。</p>		
40	16	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事形態を把握し、今日のメニューを書いてもらい楽しみをもってもらったり片付け等一緒に行っている。</p>	<p>食事は委託による給食だが、要望を伝えることで利用者が好む食事が提供できるよう支援されており、食器洗いなども一緒に行われている。また、裏の畑で収穫した野菜や果物を調理し食べたり、おやつ作りも行われており、食事を楽しむ工夫がされている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>好き嫌いの把握や水分量の確保に努めている。量の少ない方にはご本人の好きな飲み物で対処している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後は難しいが、ご本人に応じてのケアが出来ている。</p>		

43	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握、または声掛けのもと誘導し出来ないところを手伝うようにしている。</p>	<p>日誌を活用することで排泄パターンを把握し個別対応している。排泄の自立に向けて、一人ひとりに合ったタイミングで誘導し、トイレでの排泄を大切にされた支援がされている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分量、緩下剤や、下剤を使いそれぞれにあった対応をしている。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>その日の体調や気分に合わせて無理のないように行うが、拒否傾向の方に対しての支援方法に日々奮闘することがある。</p>	<p>基本週2回だが、毎日入浴したい方に対しても対応できるよう努めている。入浴出来ない時には足浴や清拭が行われている。また、季節感が感じられるよう、ゆずや入浴剤を使用し、入浴が楽しみになるよう工夫された支援がされている。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>気持ちを汲み取り声掛けのもと休んでいただく事になっている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>往診時に変化を伝え、副作用についてや服薬の仕方は薬剤師にアドバイスをもらっている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人にあった役割を依頼し、嗜好品を把握、それを一つの楽しみとして頂いている。</p>		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	玄関先での日向ぼっこ、春にはそれぞれの住まい近辺のドライブを計画しようとしている。	近くの公園や敷地内を散歩したり、季節に応じて花見や海にドライブに行っている。また、個別に自宅の近くまでのドライブも計画しており、コロナ禍においても出来る限りの外出支援がされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は車両販売で購入することもあったが、最近はできておらず何か方法を考えていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	なかなか会えないこともあり、電話でのやり取り支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度はなるべく一定に保ち、うるさすぎないように、テレビや職員の声の大きさにも気をつけてるよう努めている。	共有空間は明るく開放感があり、季節に応じた作品が飾られている。また、ソファをベランダ側に向け、共有空間の中でも一人になれる空間もあり、居心地よく過ごせる工夫がされてる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所でそれぞれがその時に落ち着ける場所で過ごせるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなじみのものや家族等の写真を飾り心地よく過ごせるよう配慮している。	居室への持ち込みの制限はなく、仏壇や使い慣れた机や椅子が使用されている。また、家族等の写真も飾られており、利用者の方が居心地よく過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した支援を心掛けた見守りを行うが、危険なことは声掛けのもと手伝わせてもらうようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない